

令和6年度自己評価公表シート

作成：赤川幼稚園

1. 本園の教育目標

〈明るく、やさしく、たくましい子〉を教育目標におき、楽しい幼稚園生活を通して、心と体の成長をはぐくむ保育。

- *何事にも積極的に取り組み、最後までやり遂げる力、自主性と思考力を伸ばす。
- *人を思いやる優しさをはぐくむ。
- *健康で明るく、情操豊かに。
- *生活に必要な習慣や態度を身につける。
- *いろいろな危険に対応できる理解と態度、交通に関する知識を学ぶ。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

昨年創立70周年をむかえた。今年度はその伝統に加えて、新たな変化にも対応し、子どもたちの成長を守り育て、子育て世代の保護者を支援する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
教育内容について	・(体験重視の保育) 昨今、幼児でもデジタルでの体験の機会が多くなっているが、当園では、四季折々の行事を通して、実体験を重視するようにした。菖蒲園で季節の花を見たり、みかん狩りの遠足、落ち葉拾いをして園庭で焼きいもをしたり、杵と臼でのお餅つき、観劇(令和6年度はインドネシアの影絵)、六甲山での雪遊びなど多様な行事を行った。 ・(体力作り) 体力作りに重点をおいている当園の特色を活かし、年少組から年長組まで体育講師を招き体育指導をおこなっている。3年間継続して行うことで年長になったときには大きな成長を見られ、乳児期をコロナ禍で過ごしてきた子ども達にとって、心身の発達に大きな効果があると思われる。 ・(製作活動・音楽活動) 令和6年度の作品展では全体テーマを万博にちなんで「大阪の街並み」とし、学年別にホールいっぱいに作品を並べて観覧してもらった。毎年の作品展を通して、子ども達は物を作る喜びを感じ、保護者には自分の子どもの製作における成長を見ていただけた。 音楽活動に関しても、学年別に保護者に見ていただける音楽参観を開き発表の場を設けた。 ・(日常の生活習慣) 基本的な生活習慣を身につけるよう、人に言われたからやるのではなく、自分で考え自分のことは自分とする第1歩となるよう指導する。

子育て支援について	・（園児の低年齢化） 未就園児の子育て支援に関しては、2歳児クラスを14年前から開設している。 ここ数年、2歳児クラスを経て満3歳で入園する園児が増えている。満3歳で入園するということは、今まではすでに家庭で身につけていた着替え、食事作法、トイレトレーニングも幼稚園で指導するケースが増えている。幼稚園での教育内容は年長～年少に関しては確固たるカリキュラムと経験があるが、低年齢にも対応するため、遠足や行事のあり方なども見なおしの必要がある場合があると思われる。 ・（少子化の影響） 少子化が続いているということは保護者にとっても家庭内で一人の子どものしか見たことが無く、子どもの発達や自分の子育てに不安を持っていることが多々ある。そうした保護者のサポートも必要になってくるので、キンダーカウンセラー事業を利用してもらうなど保護者サポートにも留意する。
安全管理について	・今年の夏は大変な猛暑であった。9月の運動会練習は熱中症対策の為、水分の補給に注意し、一人ひとりにネッククーラーを使用したりした。運動会当日も気をつけてはいたが、体調を崩した子がいて、熱中症対策の難しさを経験した。来年は、運動会開催の日を11月頃に変更すべく検討したい。 ・新型コロナウイルス感染症から5年がたち、行事の際の人数制限が無くなったが、不審者対策のため誰が来園するかは予め名簿を提出してもらい来園者の把握をした。来年からは名簿提出もなくすので来園時の保護者用名札を徹底する。 ・不審者対策や子どもの園からのすり抜け防止のため、インターフォン対応を徹底する。
ICT化について	・園内のWifiの環境を整え、各クラスに1台のタブレットを配布した。保育の様子や行事前の練習を写真や動画に撮って、先生が保育の振り返りに利用したり、保護者へのブログ発信に役立った。ただ、写真をとることが担任の負担にならないよう気をつけていく。 ・今までは保護者に緊急のお知らせをする時はメールの「はなまる連絡帳」を使って、また預かり保育の時間管理は保護者用名札を兼ねた磁気カードを使用していたが、「はなまる連絡帳」が廃止になるにあたり、新たにスマートフォン用アプリを導入した。

	まずは、欠席や遅刻早退連絡と預かり保育の申し込みを新しいアプリから入れてもらうよう始めた。運用にあたり想定外のこともあったが、随時対応していった。 まずは、教職員でアプリ内でお知らせを共有したり事務作業を行ったりし、今後は保護者にも現在は手紙で配布しているお知らせや用品購入の申込みにもアプリで対応していく。 ・在園児保護者も見やすく、また地域の幼児にも情報発信できるようホームページのリニューアルを検討する。
--	---

4. 学校評価の目標や計画の 総合的な評価

・今年度は、日常保育も行事もコロナ禍以前同様に行えるようになった。一方で、夏の猛暑や感染症、防災、不審者、交通安全など、絶えず訓練、対策、状況把握が必要であると痛感している。 ・日常の保育はもちろんのこと、体育指導・英語指導・お作法指導も加えて、子ども達の教育の向上を考えた。 上記の取り組み状況について、反省点もあるので、単年度だけではなく継続してより良い保育にしていこう努力していきたい。 ・共働き家庭が増えていることなど近年の家庭状況を鑑み、認定子ども園への移行を検討する。
--

5. 今後取り組むべき課題

課 題	課 題 内 容
保育内容の精選と 保育時間延長について	・全学年で行っている体育指導を基礎に体力強化・運動能力の向上を目指す。 体育指導以外にも、日常保育、音楽、英語、お作法など毎年の成果を示すことができる機会を考える。 ・熱中症対策として、行事について内容や時期を見直す。 ・現在、水曜日は通常より1時間早い13時半降園時間となっているが、来年から他曜日と同じ14時半にして保育時間をしっかり確保する。 水曜日のお弁当持参を改め、米飯給食とする。 ・教職員は積極的に研修に参加し、指導力の向上をはかる。

安全対策について	・不審者対策や子どもの園内からのすり抜け対策として呼び鈴がなくてもすぐに戸を開けずに、まずはインターフォンで対応するよう徹底する。 ・今まではすぐ近くの集会所に AED が設置されていたそれが無くなったので、園として AED を購入して保管する。教職員も使用方法を学ぶ。
地域とのつながりについて	・城北連合町会の方にご協力いただき、コミュニティー広場の一部をお借りしてさつまいもを栽培し、年長組が苗植えと芋掘りを体験した。水やり等を町会の方に任せているが、地域との交流事業として、子ども達も何かできないかできる事がないか考えたい。 ・特に小学校との関わりを重視し、さらに幼小連携できないか考えたい。
ICT 化について	・R 6 年度に新しいアプリを導入したので、現在、紙で配布しているお知らせもアプリで配信するなど、ペーパーレス化にむけて検討する。

6. 学校関係者の評価

・ 昨年の能登地震や豪雨による水害など自然災害が続いており、南海トラフ地震発生の危険も言われているので、幼稚園の安全対策の取り組みとして、避難訓練（特に地震）などの災害時の対応をしっかりとすすめてほしいと思います。 ・ 園児数が減っているなので、認定子ども園への移行の検討は良いことだと思いますが、在園児や新入園児にとってはどのように変わるか、2歳児の受け入れはどうするのか、教職員の勤務態勢はどのようになるのか等、きめ細かく丁寧な説明をお願いします。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。
